

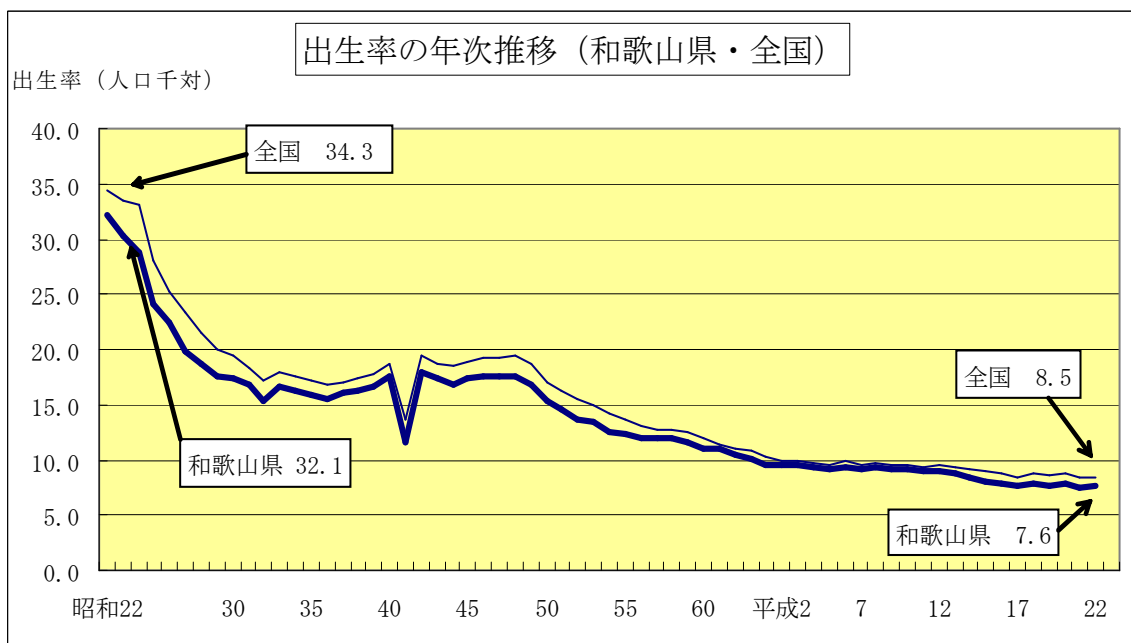
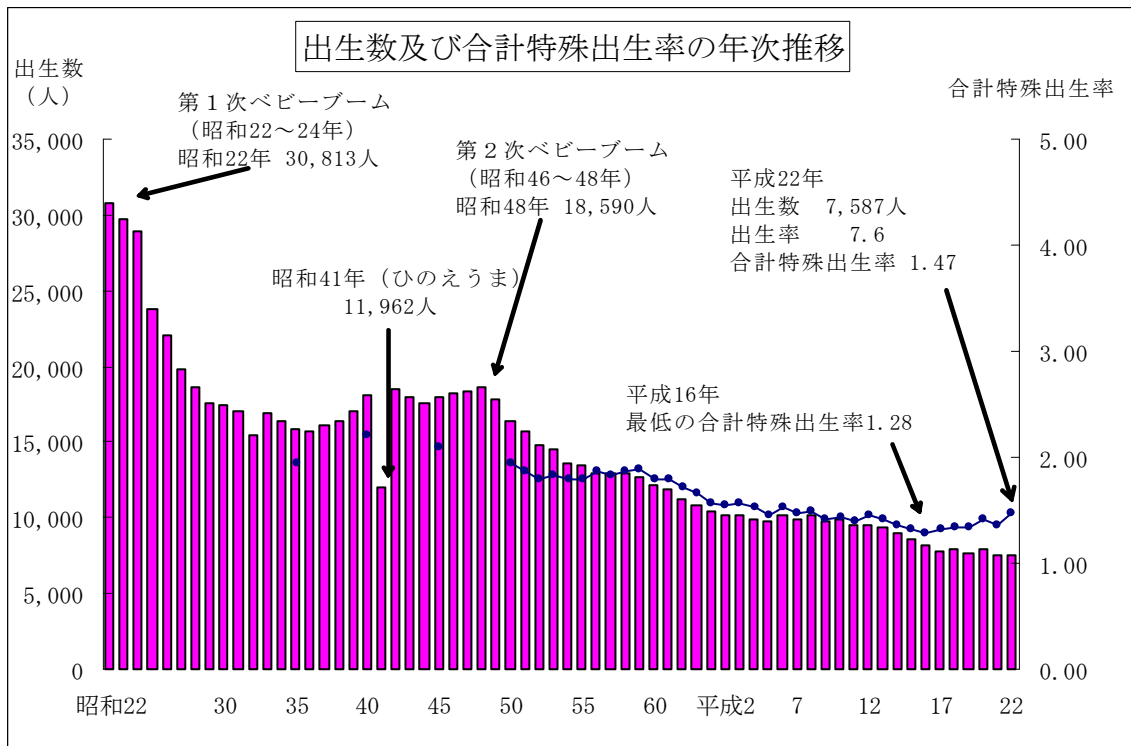
Ⅲ. 結果の概要

1 出生

平成22年の出生数は7,587人で、前年の7,516人よりも71人増加した。

出生率（人口千対）は7.6で前年の7.5を上回った。また、合計特殊出生率は1.47で、前年の1.36を上回った。

昭和50年以降は減少を続け、平成に入ってから増加と減少を繰り返しながら減少傾向にある。



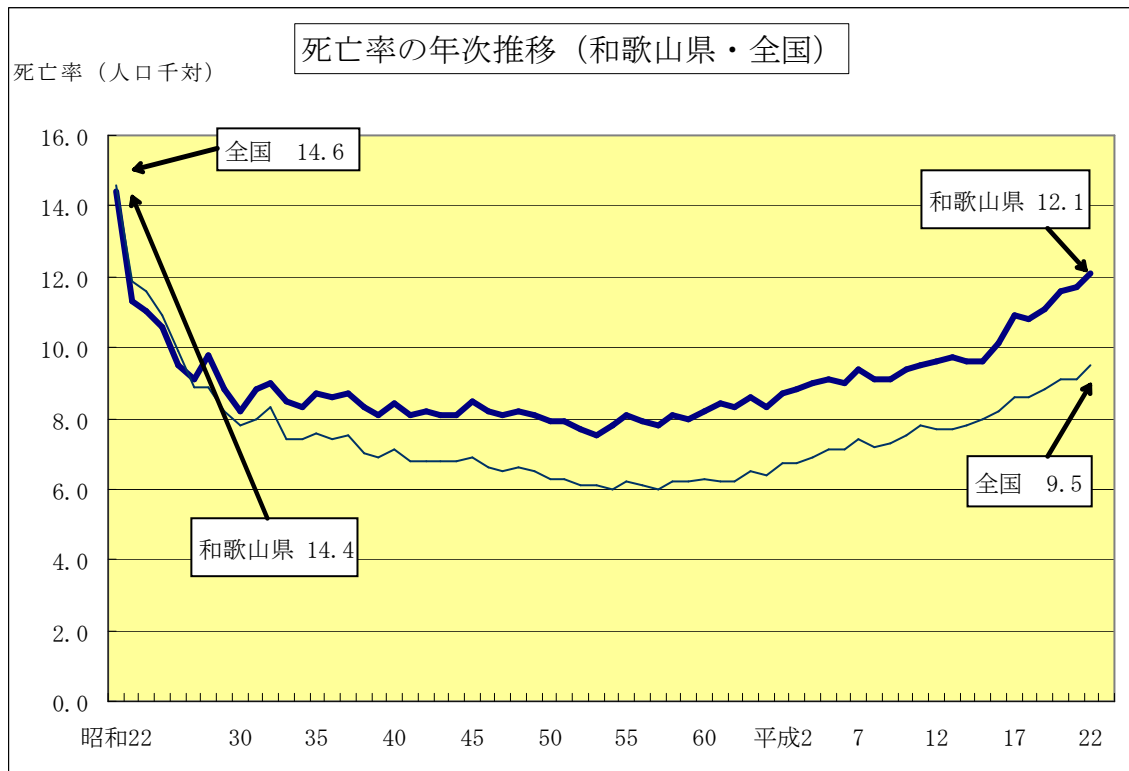
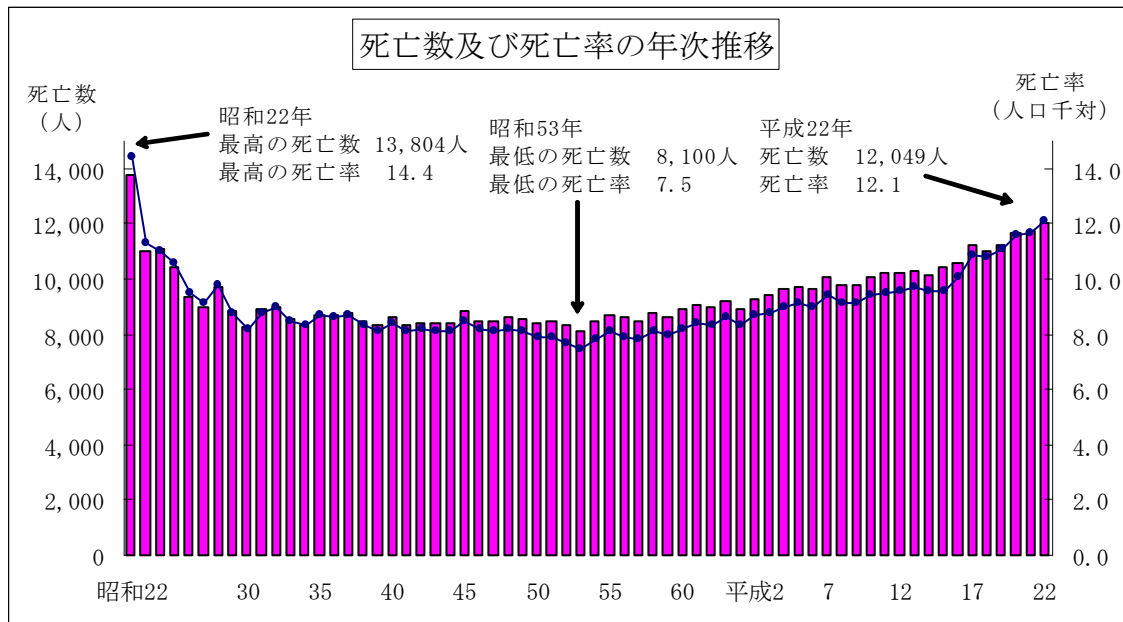
2 死亡

(1) 総死亡

平成22年の死亡数は12,049人で、前年の11,736人より313人増加した。

死亡率（人口千対）は12.1で前年の11.7を上回った。

昭和26年以降は8,000人前後で推移していたが、平成7年及び平成10年以降は1万人以上となり上昇傾向にある。



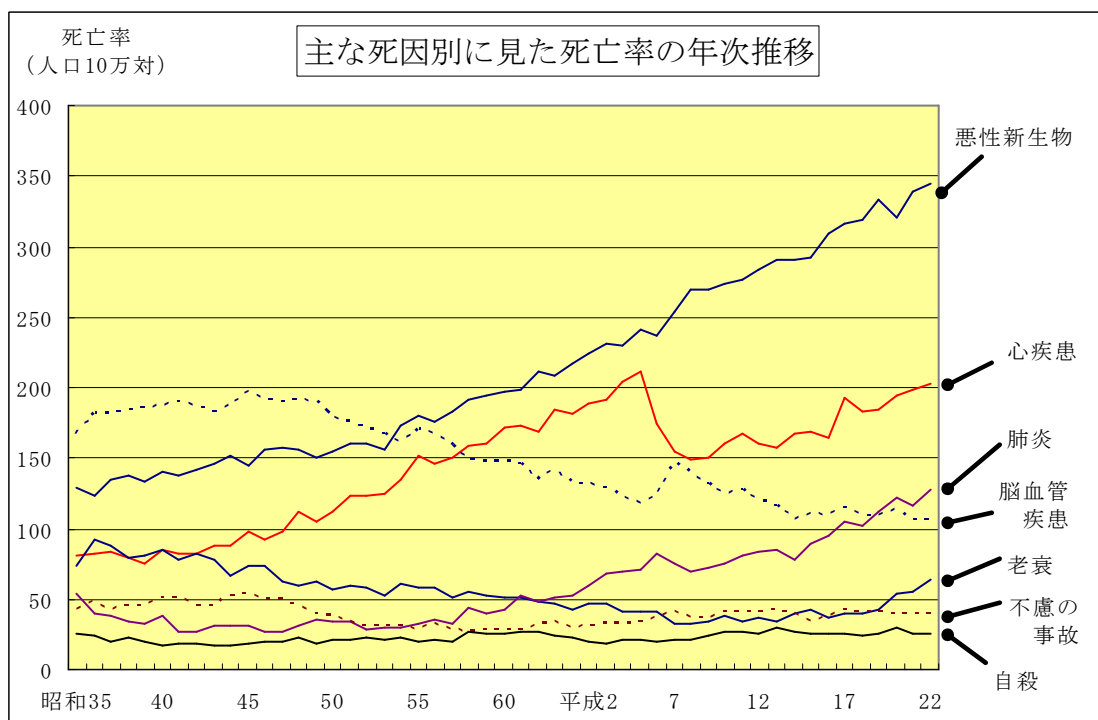
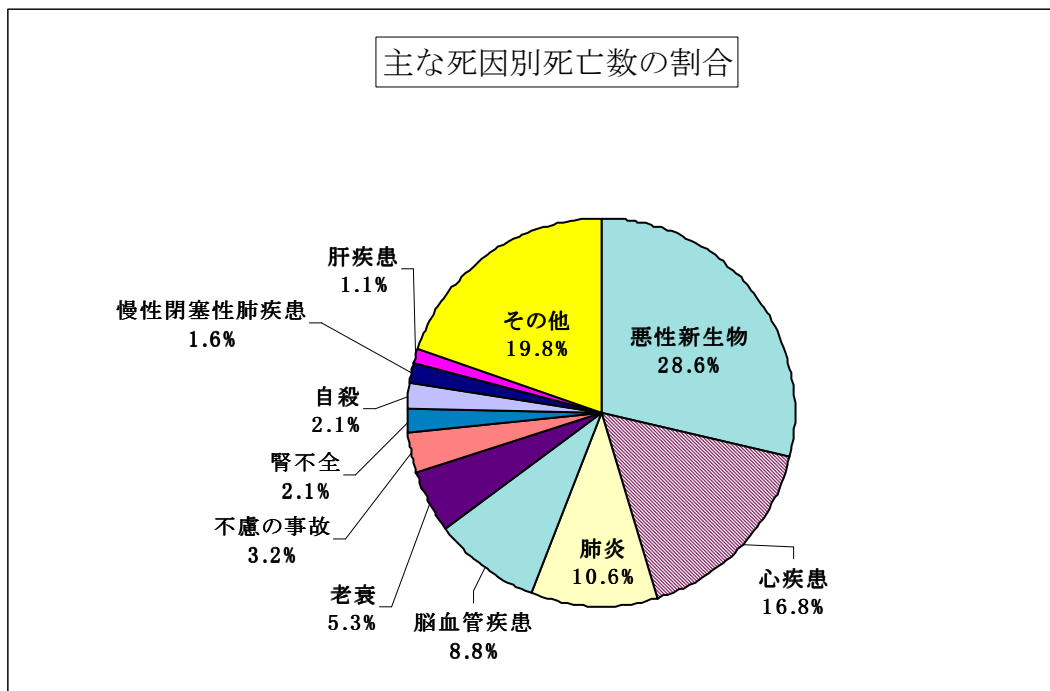
(2) 死因別死亡

死因別に見ると、死因順位の第1位は悪性新生物、第2位は心疾患、第3位は肺炎であり、全死亡者に占める割合は、それぞれ28.6%、16.8%、10.6%となっている。

主な死因の年次推移を見ると、悪性新生物は、昭和54年以降から第1位となり、上昇傾向にある。

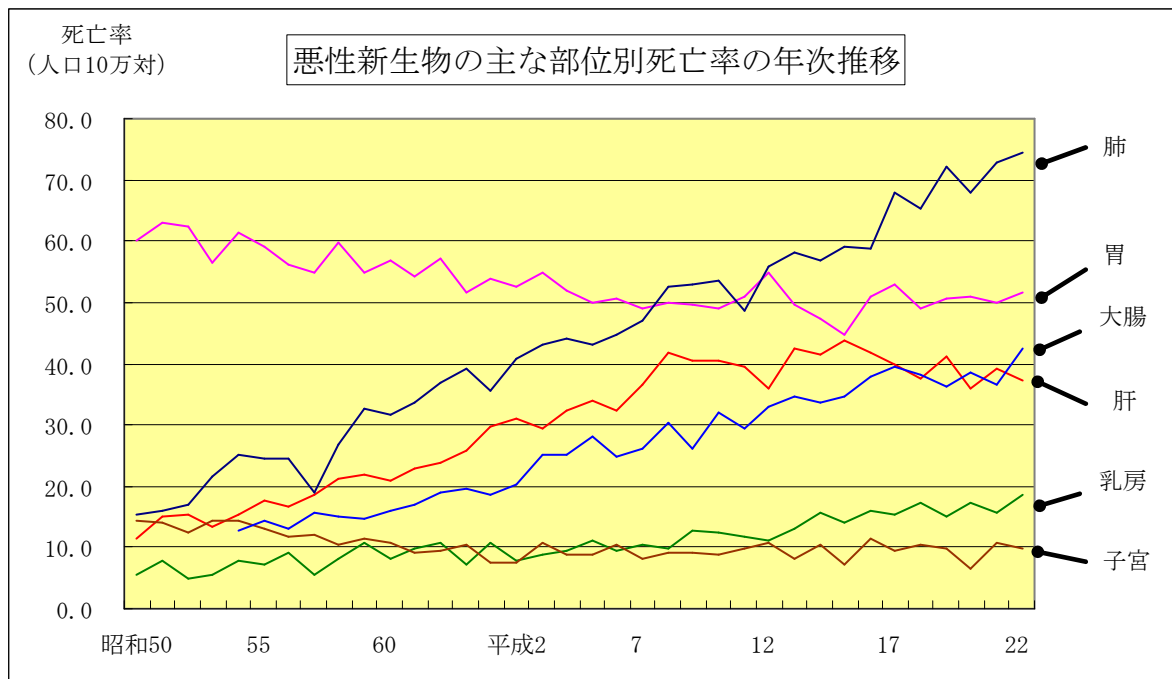
心疾患は昭和58年に脳血管疾患に変わって第2位となり、増減はあるものの死亡数・死亡率とも上昇傾向にある。

肺炎は平成18年まで第4位であったが、平成19年からは脳血管疾患にかわって第3位となっている。



(3) 部位別に見た悪性新生物

悪性新生物での死亡数は3,440人であり、前年の3,385人よりも55人増加した。死亡数を部位別に見ると、1位「肺」2位「胃」3位「大腸」となっている。「肺」は平成8年にはじめて「胃」を上回り、平成11年を除き1位となっている。



- 注) ① 「大腸」は昭和54年からの分類である
 ② 「乳房」「子宮」は女性10万人対の死亡率である

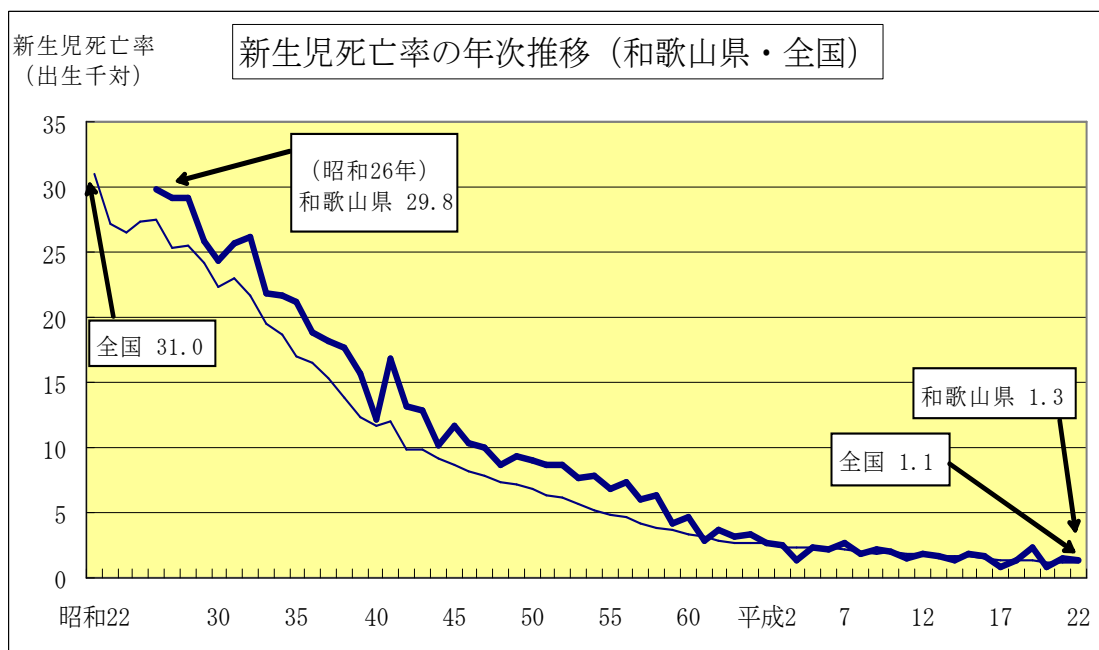
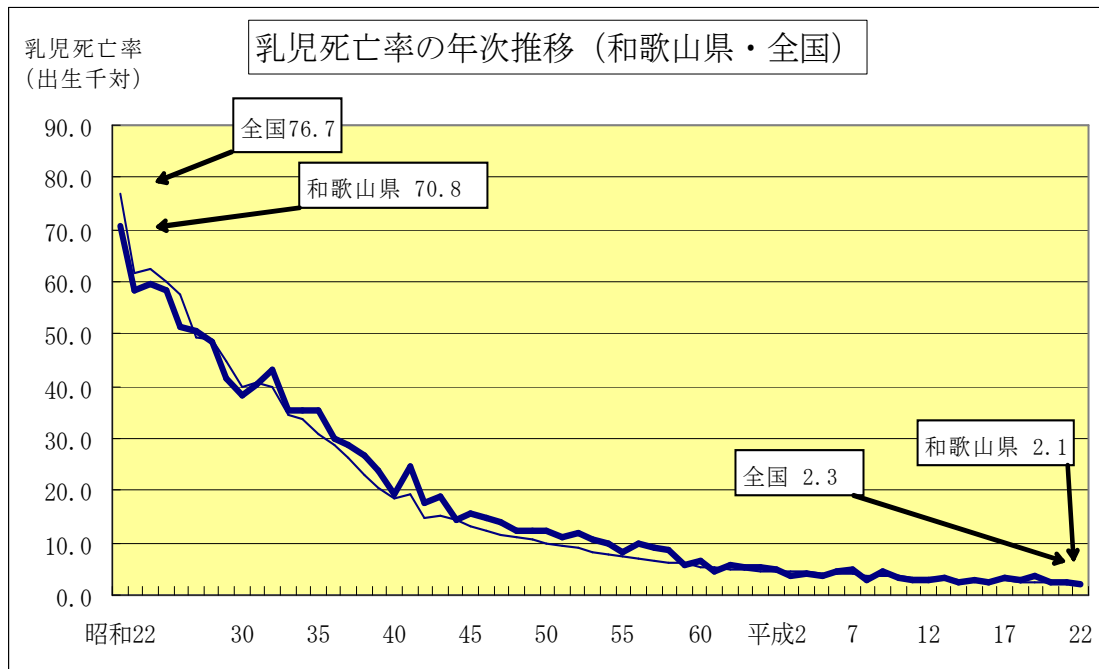
(4) 乳児死亡、新生児死亡

平成22年の乳児死亡数は16人で、前年の18人より2人減少した。

乳児死亡率（出生千対）は2.1で、前年の2.4を下回った。

また、平成22年の新生児死亡は10人で、前年の11人より1人減少した。

新生児死亡率（出生千対）は1.3で、前年の1.5を下回った。



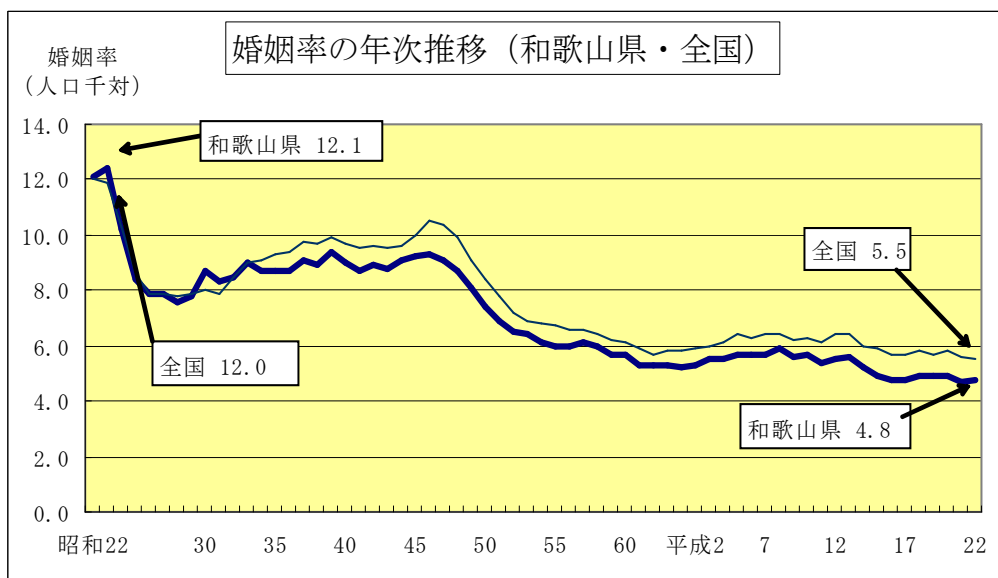
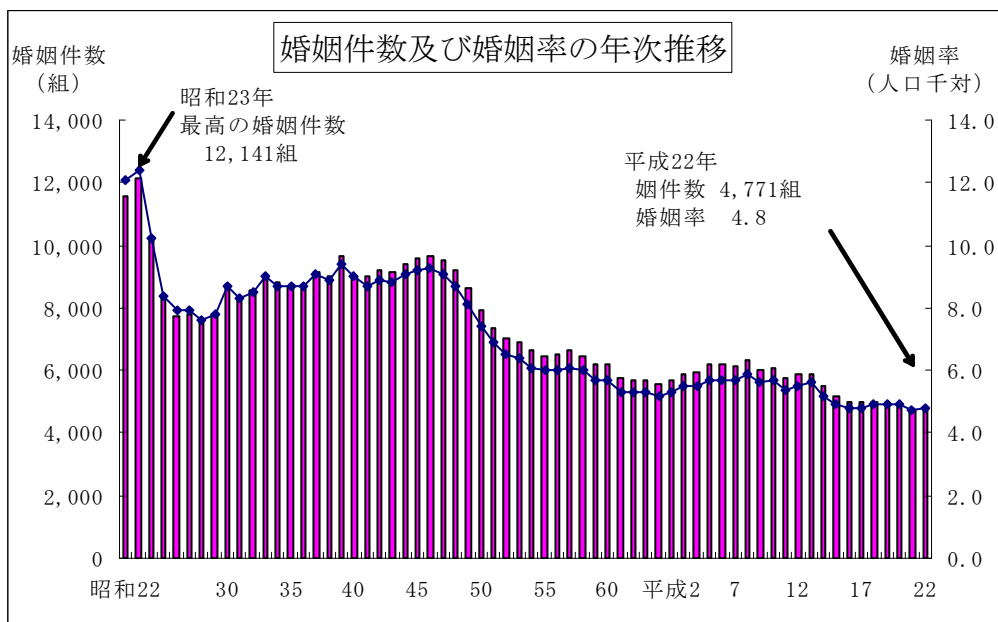
3 婚姻

平成22年の婚姻件数は4,771組で、前年の4,708組より63組増加した。

婚姻率（人口千対）は4.8で、前年の4.7を上回った。

婚姻件数は、昭和23年以降、急激に減少し、昭和30年から40年代前半は9,000組前後で推移していたが、昭和46年以降は再び減少傾向となった。平成元年からは緩やかな増減を繰り返していたが、平成21年は婚姻件数、婚姻率とも最低となった。

平成22年の平均初婚年齢は、夫29.7歳、妻28.2歳で、前年と比べると夫は同じ、妻は0.1歳上昇した。

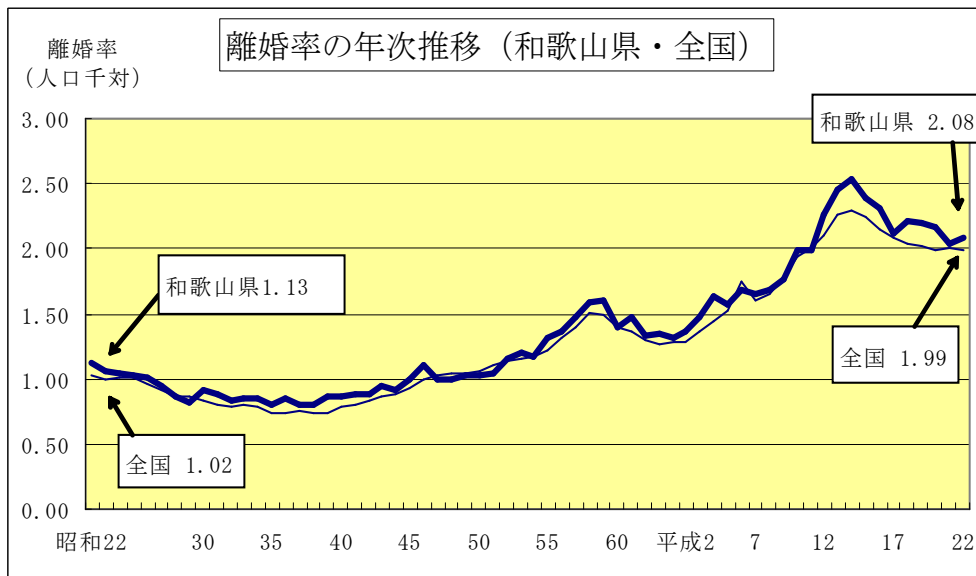
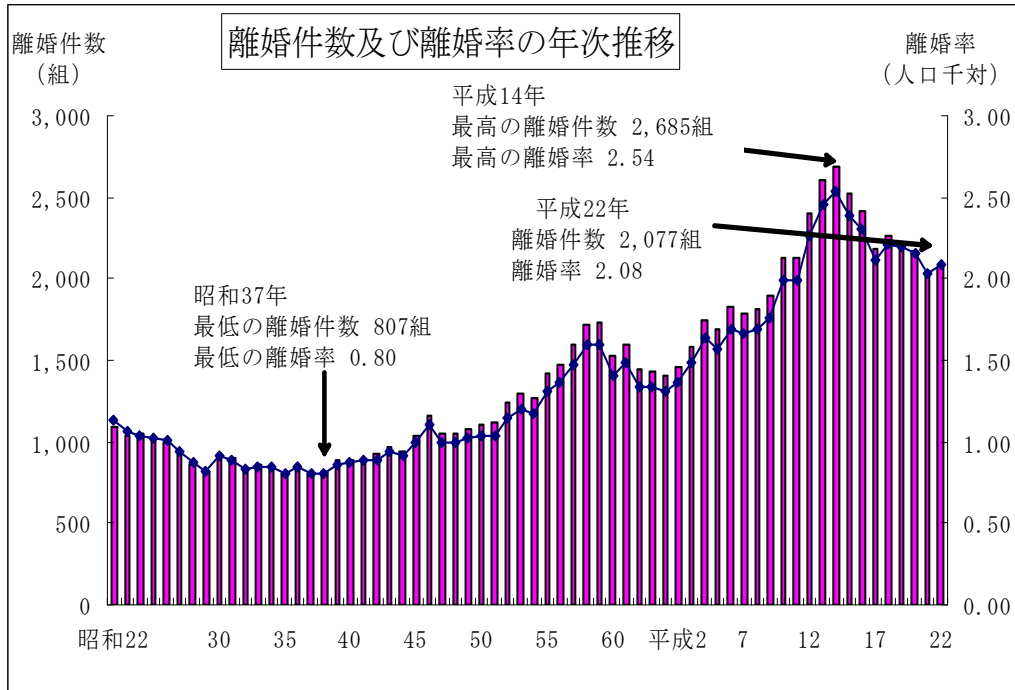


4 離婚

平成22年の離婚件数は2,077組で、前年の2,028組より49組増加した。

離婚率（人口千対）は2.08で前年の2.03を上回った。

離婚件数は昭和37年以降増加を続けていたが、平成14年をピークに減少傾向に転じている。



IV 統計表